

第一内科診療科群（病態情報内科学分野） 専攻医研修（後期研修）プログラム

〔プログラムの特徴〕

- I. 専門医取得と医学博士の学位取得がともに可能なプログラム
- II. 第一内科診療科群に所属すると同時に下記循環器内科部門、あるいは内分泌代謝内科部門に所属するが、希望により最初の1年間のうち3～6ヵ月間ずつ、両部門のローテーションが可能である
- III. 専攻医研修（後期研修）開始後、地域における関連病院においても、臨床研修が可能である
- IV. 将来、総合診療医となることを目指す上で必要な循環器内科、内分泌代謝内科の研修を希望する場合も、受け入れ可能である。（第三者機関において総合診療専門医育成プログラムの基準が策定されれば、鳥取大学医学部附属病院としての育成プログラムが設けられる予定）

1. 附属病院における担当診療科

- (1) 循環器内科
- (2) 内分泌代謝内科

2. 受け入れの身分

- (1) 医員
- (2) 大学院生

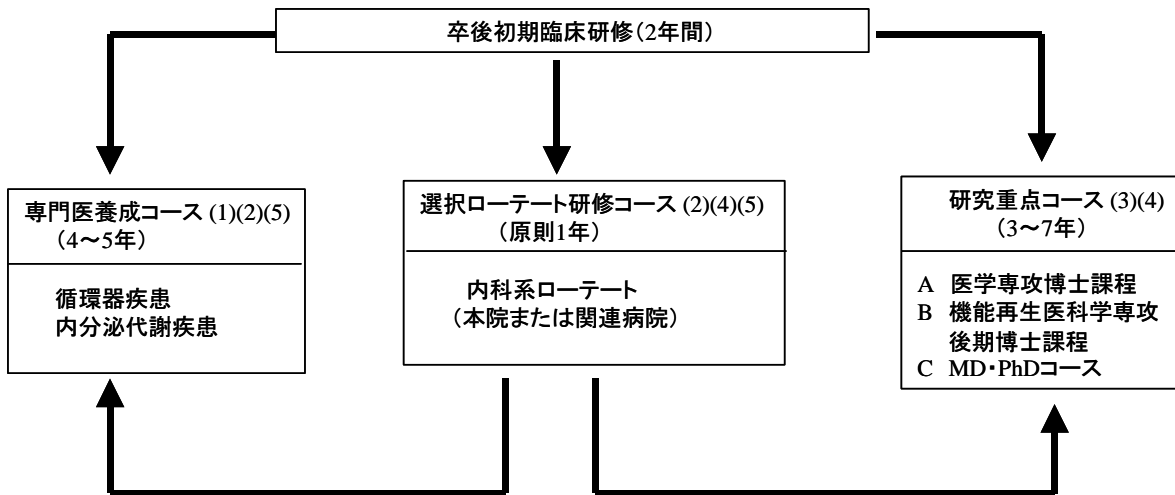
鳥取大学大学院医学系研究科

- (1) 医学専攻博士課程（発達加齢適応医学領域；病態情報内科学分野）（4年制*）
 - ①一般選抜（*研究の内容によっては、3年または3年半で修了可能）
 - ②社会人特別選抜（本院医員または一般病院に勤務しながら入学可能）
 - ③初期研修2年目に医員（研修医）の身分のまま、大学院医学系研究科（社会人特別選抜）に入学可能である（鳥取大学大学院医学系研究科と鳥取大学医学部附属病院の申し合わせによる）
- (2) 機能再生医科学専攻後期博士課程：遺伝子再生医療学講座（3年制**）
 - ①再生医療学分野
 - ②制御再建医療学分野

**研究の内容によっては、2年で修了可能

[*、**の規定から、MD・PhDコースを修了すれば医学博士の学位と再生医科学博士の2つの学位を最短5年で取得することができる]

3. 初期臨床研修修了後の選択可能なコース



- (1) 初期研修修了後、直ちに専門医養成コースの循環器疾患または内分泌代謝疾患の専門医研修を開始できるが、希望により最初の1年間におけるこの2つの疾患群のローテート研修を可能とする。
- (2) 選択ローテート研修コースの内科系ローテート研修（1年）を経て、専門医養成コースの2年目に移行できる。
- (3) 初期研修修了後、直ちに研究重点コース（鳥取大学大学院医学系研究科に入学し、研究に専念）のA、BまたはCに進むことができる。
- (4) 選択ローテート研修コースの内科系ローテート研修（1年）を経て、研究重点コースのA、B、Cいずれかの2年目に進むことができる。
- (5) 専門医養成コースおよびに選択ローテート研修コースを選択するとしても、初期研修2年目あるいは初期研修修了後直ちに大学院医学専攻博士課程に入学できる。

4. 専門医養成コース（選択ローテート研修コースを経る、経ないにかかわらず）を修了することにより、医学博士の学位と下記の専門医受験資格を得ることができる。

PG	専門医養成コース		
7		←医学博士の学位	←各種専門医受験資格 ←各種専門医受験資格
6			
5			
4			
3	選択ローテート研修を經由可		←認定内科医受験資格
2	卒業初期臨床研修（2年）		
1			

／は大学院在学中

5. 第一内科診療科群において取得可能な専門医

- (1) 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- (2) 日本循環器学会循環器専門医
- (3) 日本糖尿病学会糖尿病専門医
- (4) 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医
- (5) 日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医
- (6) 日本不整脈学会不整脈専門医
- (7) 日本甲状腺学会甲状腺専門医
- (8) 日本超音波医学会認定超音波専門医
- (9) 日本高血圧学会高血圧専門医

6. 各種認定医、専門医受験資格

認定医、専門医	認定内科医取得の要否	受験に必要な研修期間	受験に必要な学会会員歴
認定内科医		初期臨床研修 2 年＋教育病院（内科系大学院を含む）1 年以上、または教育関連病院 1 年以上、計 3 年以上	卒後 3 年目に入会すればよい
総合内科専門医	要	認定内科医取得後、教育病院（内科系大学院を含む）1 年以上＋教育関連病院 2 年以上、計 3 年以上 （注）3 年以上のうち教育病院での研修 1 年以上は必要	
循環器専門医	要	認定内科医取得後教育病院で 3 年以上	通算して 6 年以上の会員歴（6 年目を含む）
糖尿病専門医	要	認定内科医研修の過程を修了後、認定教育施設で 3 年以上	申請時に継続 3 年以上の会員歴
内分泌代謝科（内科）専門医	要	認定内科医研修の過程を修了後、認定教育施設で 3 年以上	申請時に継続 3 年以上の会員歴
日本心血管インターベンション治療学会認定医	不要	認定教育施設で 200 例以上の心血管カテーテル治療の経験	申請時に会員であること
日本心血管インターベンション治療学会	日本循環器学会専門医が必要	認定医取得後、認定教育施設でカテーテル治	認定医取得後、申請時に継続 3 年以上の会員歴

専門医		療の術者として 500 例以上の経験があること	
不整脈専門医	日本循環器学会専門医あるいはそれに準ずる専門医資格が必要	認定研修施設で通算 5 年以上	申請時に継続 3 年以上の会員歴
甲状腺専門医	不要	研修期間はないが、学会認定の生涯教育・専門医教育受講が必要。	申請時に継続 5 年以上の会員歴
超音波専門医	不要	認定研修施設で通算 5 年以上	申請時に継続 5 年以上の会員歴
高血圧専門医	要	認定内科医取得後教育病院で 3 年以上	申請時に継続 3 年以上の会員歴

要点のみを要約しており、詳細は各学会の HP を参照。

7. 診療分野ならびに研修内容

A. 診療分野

1) 循環器内科

虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、不整脈、弁膜症、心筋炎、心膜炎、心筋症、心不全、動脈疾患、肺高血圧症、睡眠時無呼吸症候群、高血圧などの循環器疾患全般

2) 内分泌代謝内科

(1) 内分泌疾患

視床下部 - 下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺・骨代謝疾患、副腎疾患、神経内分泌腫瘍などの内分泌疾患全般

(2) 代謝性疾患

糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、肥満（単純性；二次性）、メタボリックシンドロームなどの代謝性疾患全般

B. 研修内容

1) 循環器疾患

(1) 各患者の病態を理解し、科学的根拠に基づいた医療を実践（Evidence-based medicine）できる。

(2) 循環器救急患者に対する処置ができる（特に致死的不整脈、急性冠症候群、心不全など）。

(3) 基本的事項としての左右心カテーテル、冠動脈造影、経胸壁および経食道心エコー検査、運動負荷試験、ホルター心電図、心嚢液穿刺術、一時的ペーシングカテーテル留置、心血管 CT および MRI、心臓核医学検査、電気生理学的検査、ペースメーカー植え込み術 IABP や PCPS 挿入などを実施/評価できる。

(4) 経皮的冠動脈インターベンション（PCI）、高周波カテーテル焼灼術、CRT-D や ICD 植え込み術などで、サブオペレーターを務めることができる。

(5) 脳死心臓移植、植え込み型補助人工心臓の適応について理解できる。

(6) 複雑な病態を呈しガイドラインに記されている方針が単純には当てはまらない症例に対し、EBM を加味しながら、適切と思われる方針を理論的に導き出すことができる。

2) 内分泌・代謝性疾患

- (1) 内分泌代謝疾患の病態を理解し、内分泌機能検査、画像検査等による正しい診断ができる。
- (2) 内分泌代謝疾患に対する EBM に基づいた治療（ホルモン補充療法、抗甲状腺薬、放射性ヨード内用療法の適応、外科的治療の適応等）の理解と実施ができる。
- (3) 内分泌代謝疾患の救急医療（甲状腺クリーゼ、副腎不全など）が実践できる。
- (4) 甲状腺超音波検査および穿刺吸引細胞診の適応を理解し、実践できる。
- (5) バセドウ病眼症の病態を理解し、正しい診断と治療が実践できる。
- (6) 糖尿病の診断：ガイドラインに従った正しい診断とその病型分類、合併症の評価ができる。
- (7) 糖尿病の治療：糖尿病ケトアシドーシスなどの急性期合併症の診断と治療、妊娠糖尿病の管理ができる。食事療法と運動療法の実施、経口血糖降下剤、インスリン療法（ポンプ療法含む）の適応の理解と実施ができる。
- (8) 糖尿病患者教育に関してコメディカルスタッフと共に実践できる（糖尿病医療支援チーム）。
- (9) 人工臓器によるインスリン抵抗性、食事負荷試験によるインスリン分泌能の評価ができる。

3) チーム医療の実践

他診療科の医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、臨床心理士、理学療法士などとチームを形成して総合的アプローチを推進し、チームにおける指導的役割を担う素養を身に付ける。

8. 第一内科教育関連病院

- 鳥取県立中央病院
- 鳥取赤十字病院
- 鳥取県立厚生病院
- 山陰労災病院
- 済生会境港総合病院
- 松江赤十字病院
- 島根県立中央病院
- 智頭病院
- 野島病院
- 博愛病院
- 日南病院
- 香住病院
- 三朝温泉病院
- 安来市立病院
- その他これまでに連携してきた病院
 - ・都立広尾病院（東京都）
 - ・東京女子医科大学糖尿病センター（東京都）
 - ・名古屋第二赤十字病院（愛知県）
 - ・桜橋渡辺病院（大阪市）
 - ・小倉記念病院（福岡県）
 - ・川崎社会保険病院（神奈川県）
 - ・済生会横浜市東部病院（神奈川県）

・土浦協同病院（茨城県）

9. 専門医養成コース修了後あるいは研究重点コースでは大学院在学中に国内外の研究施設に留学が可能である。

10. 連絡先

(1) 鳥取大学医学部附属病院第一内科（病態情報内科学）

統括医長 加藤 克

科長・教授 山本 一博

〒683-8504 米子市西町 36-1

TEL 0859-38-6517

FAX 0859-38-6519

e-mail ichinai-tokatsu@grape.med.tottori-u.ac.jp

URL <http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/medicine1/>

(2) 鳥取大学医学部附属病院卒後臨床研修センター

〒683-8504 米子市西町 36-1

TEL 0859-38-7025

FAX 0859-38-6974

e-mail sotsugo@med.tottori-u.ac.jp